

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 【新】木曾川中流域を中心とした体験型広域観光づくり推進事業費 (R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 観光資源活用課 観光コンテンツ係 電話番号：058-272-1111(内3934)

E-mail：c11337@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 15,561 千円 (現計予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 入 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 源 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	15,561	7,574	0	0	0	0	0	0	7,987
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

木曾川中流域エリアは「日本ライン」と呼ばれ、名勝や国定公園に指定されている。その他にも多くの観光資源を有しているが十分に活かされておらず、また特に、かつての「日本ライン下り」が休止となったことで、川とともに育まれた川と人々の関係が希薄になりつつある。これら課題を解決し、当該エリアのポテンシャルを活かして、県内全域への誘客や周遊滞在を促すことが必要である。

こうした中、木曾川中流域エリア (美濃加茂市、各務原市、可児市、坂祝町、犬山市) では、令和 3 年 7 月に官民連携組織「木曾川中流域観光振興協議会」を設立し、木曾川の豊かな自然や歴史・文化などの地域資源を活用したプロモーションや体験型コンテンツの実証を兼ねた賑わい創出イベントの開催等により、誘客促進と観光消費額の拡大に取り組んできた。

この取組のなかで、川のアクティビティによる川下りの復活の試みや、沿川のサイクリングロードを活用したサイクルツーリズムの活発化、地元有志による川の景観を活かした音楽ライブの開催など、観光・文化・スポーツが融合した体験型の観光コンテンツが育まれつつある。

そこで本事業では、木曾川中流域エリア中心に、観光・文化・スポーツが融合した体験型広域観光づくりを推進することで、特定の地域への観光客集中を緩和し、県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大を図り、「人が集まる岐阜県」の実現を目指す。

(2) 事業内容

- ①観光・文化・スポーツを融合させた体験型広域観光コンテンツ造成（7,634千円）
- ②体験型観光づくり推進のための調査・実証実験の実施費（7,515千円）
- ③「木曾川中流域観光振興協議会」開催（412千円）

(3) 県負担・補助率の考え方

本事業は複数市町にまたがる観光の振興を目的とする事業であり、県負担は妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	74	「木曾川中流域観光振興協議会」座長謝金
旅費	252	協議会座長、職員旅費
消耗品費	60	ノベルティ作成
会議費	6	
使用料	20	会議室使用料
委託料	15,149	イベント開催、PRツール制作
合計	15,561	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

④世界に選ばれる持続可能な観光地域づくり

(2) 後年度の財政負担

短期的に達成できるものではなく、一定期間、継続して行う必要がある

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

木曽川中流域エリア中心に、観光・文化・スポーツが融合した体験型広域観光づくりを推進することで、特定の地域への観光客集中を緩和し、県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大を図り、「人が集まる岐阜県」の実現を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標	達成率
					(R9)	
①観光消費額		3,044億円	3,100億円	3,300億円	3,600億円	84.6%
②観光入込客数 (実数)		4,365万人	4,800万人	4,900万人	5,300万人	82.4%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	
令和4年度	
令和5年度	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価)	<p>3 特定の地域への観光客集中を緩和し、県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大に繋げるため、木曾川中流域を中心に育まれつつある観光・文化・スポーツが融合した体験型観光を推進する必要がある。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 特定の地域への観光客集中を緩和し、県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大に繋げる</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 統一コンセプトに基づき、5市町が連携した取組を展開する。また、令和6年9月の協議会で確認した今後の方向性について取組んでいく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	<p>【〇〇課】</p>